

平成 28 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	66	学校名	牛久栄進高等学校				課程	全日制		学校長名	小沼 和美					
副校長名	細谷 忠夫		教頭名	中澤 斉						主査兼事務長名	大森 伸一					
教職員数	教諭	60	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	2	実習講師	1	事務職員	4	技術職員等	4	計	79
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	147	174	146	174	134	178	—	—	427	526	24				

2 目指す学校像

情報通信技術や科学技術の劇的な進歩，国際化・経済のグローバル化，更には超高齢化等急速に変化する社会において，それらに柔軟に対応できる力を育むと同時に，豊かな人間的資質を培い，自主自律の態度を養い，進取の気概あふれる創造性豊かな青年を育成する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
教科指導	生徒の教育的ニーズに応じ，単位制の特長を最大限生かした教育課程の編成，選択科目の講座の開講に努めるとともに，「少人数指導」「TT授業」も数多く実施している。「55分授業」により，「1分を大事にする授業」の意識も浸透してきている。また年次・教科それぞれが，指導の工夫・改善に取り組んでいる。	更なる授業のレベルアップをめざして，授業内容・教授法に関する研究・研修をさらに進める必要がある。具体的には，公開授業や研究協議，授業研修及び校外での研修結果の報告会等，校内外での職員研修を如何に充実させていくか。
特別活動	様々な学校行事への取組みにおいては，生徒たち全体が大変積極的に取り組んでいるが，生徒会や委員会活動への参加意識はまだ十分とは言い難い。部活動は運動部及び文化部とともに，全国大会や関東大会など，よりレベルの高い大会への出場を目標にして活発に行われている。	生徒会・常置委員会，部活動の存在意義とその必要性について理解を深めさせ，生徒の自己管理能力を高めるとともに，自ら考えて積極的に行動する力の育成を如何に図っていくか。
生徒指導	基本的な生活態度は全体的によく身に付いており，礼儀正しく真面目な生活態度であるが，心因性の悩みを抱える生徒も一部に見られ，教育相談等を必要とする生徒は少なくない。また，交通事故，不審者遭遇等の発生件数は比較的減少傾向にあるが，今後も安全教育の徹底が求められる。	生徒同士の間関係形成能力や規範意識の更なる向上，及び問題を抱える生徒の早期発見及び保護者・関係機関との連携を如何に図るか。生徒に危機察知及び回避能力等を如何に身につけさせるか。

進路指導	ほぼ全員が進学希望であり，より高い進路目標の実現に向けてきめ細かな指導を行っている。平成28年春の国公立大学合格者数は102名(現役97, 過年度5)で，6年連続で国公立大学合格者100名以上の実績をあげた。	一人一人の生徒の進路実現に向けて，如何にして学校全体における組織的協働体制を確立し，国公立大学100名以上の合格を継続し，さらに如何に質的向上を図るか。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------

4 中期的目標

<p>1 『活力ある進学校』 一人一人の個性と創造性を最大限に伸ばす，『活力ある進学校』を目指す。</p> <p>2 『個に応じた学習指導』 単位制のシステムを生かして，個に応じた，より深い探求学習を展開する。</p> <p>3 『自主自律の人づくり』 主体的に行動し，自分の未来を自分自身で拓く，『自主自律の人づくり』を目指す。</p>

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
教科指導 - 授業は真剣勝負 -	① 単位数講座・基礎をきく教員及び ② 一人一人の個性と創造性を最大限に伸ばす ③ 単位制のシステムを生かして，個に応じた，より深い探求学習を展開する。
特別活動 - 部活動や生徒会活動等の更なる充実 -	④ 「生きる力」を身に鍛錬する ⑤ 学校行事を通じて ⑥ HR生徒会 ⑦ 国際交流事業を通じて
生徒指導 - 社会的責任を自覚し行動できる生徒の育成 -	⑧ 全職員 ⑨ 個別面談 ⑩ 登下校 ⑪ ネット回避 ⑫ 生徒が
進路指導 - 生徒一人一人の特性を生かした指導 -	⑬ 一人一人の個性と創造性を最大限に伸ばす

	⑭ 生徒が必要とする参考図書等を精選して購入し，生徒による図書の活用を促進する。
保護者及び地域社会との連携 － 積極的な情報発信 －	⑮ 教育活動や学校行事等について細かく保護者に伝達し，常に保護者と教職員が手を携えて生徒の教育にあたる体制を継続していく。 ⑯ HPや各種印刷物等を通じて，保護者・地域社会に対し，教育目標・教育活動等の情報をさらに積極的に発信していく。